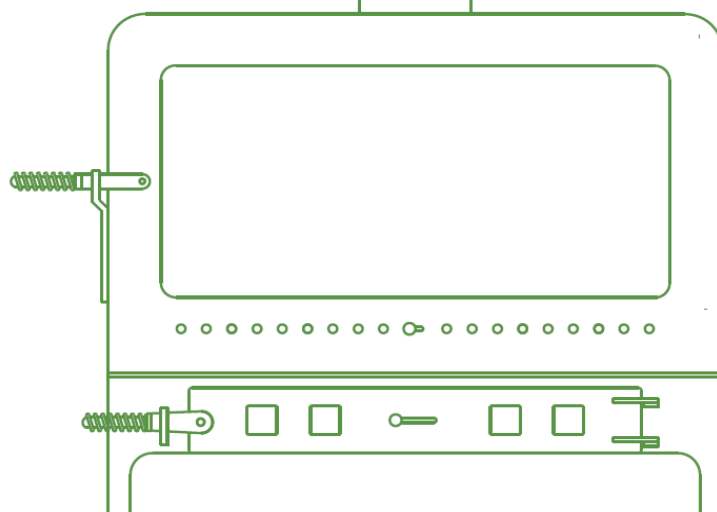


取扱説明書



 moku moku®

取扱説明書

1. ごあいさつ

このたびは弊社製薪ストーブをお選びいただき、誠にありがとうございます。本製品には特許を取得したロストル構造(特願 2014-054376)を採用しており、着火性に優れ、安定した燃焼を実現いたします。広葉樹・針葉樹を問わず、扱いやすく設計されています。本製品を安全かつ快適にご使用いただくため、取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

目次

1. ごあいさつ
2. 安全上のご注意(最初に必ずお読みください)
3. 各部の名称と役割(図解)
4. 設置に関するご注意
5. 薪について
 - 5-1. 薪の乾燥と含水率の測定方法
6. ご使用前の準備
7. 操作方法(着火手順)
8. 操作のコツと注意点
9. ロストル構造の解説(特許構造)
10. 日常のお手入れ
 - 10-1. 灰の処理
 - 10-2. ガラスの清掃
 - 10-3. ガラスクリーナー給気ボックスの点検
11. シーズン終了時のお手入れ
12. 保証とアフターサービス
 - 12-1. 保証対象外
 - 12-2. アフターサービス
13. お問い合わせ先

2. 安全上のご注意(最初に必ずお読みください)

本製品を安全にご使用いただくために、本章の内容を必ずお読みください。ご使用者ご本人はもちろん、ご家族や財産への危害を未然に防ぐために重要な事項を記載しております。内容をご理解のうえ、正しくお守りいただき、安全に使用してください。

注意表示マークの意味

- 【☹】 危険: 重大な事故や火災、または死亡につながる恐れがあります。
- 【⚠】 警告: 死亡または重傷、あるいは重大な財産損害を引き起こす可能性があります。
- 【!】 注意: 軽傷を負う、または本製品に損傷を与える恐れがあります。
- 【💡】 重要: 安全かつ快適にご使用いただくために、特に守っていただきたい内容です。

【☹】 危険(絶対に行わないでください)

- 着火時に換気扇を使用しないでください。
逆流により煙が室内に流れ込む恐れがあります。
- ストープや煙突の設置・移設は、必ず専門業者または販売店にご依頼ください。
不適切な工事は火災や事故の原因となります。
- 新聞紙やダンボールを着火材として使用しないでください。
強い空気の流れにより、火の付いた紙が舞い上がる恐れがあります。
- ベニヤ板・塗装木材・ゴミ・プラスチック類は絶対に燃やさないでください。
有害ガスや大量の煙が発生し、火災や故障の原因となります。

【⚠】 警告(必ず守ってください)

- 乾燥した薪以外は使用しないでください。
海の流木、塗装や薬剤処理を施した木材、ガソリン・灯油・オイルなどは非常に危険です。
- ストープや煙突の周囲に可燃物を置かないでください。
紙・衣類・洗濯物・スプレー缶などは引火する恐れがあります。
- 本体や煙突を改造しないでください。
燃焼が正常に行われなくなり、破損や火災の原因となります。
- 就寝時や外出時は、必ず全ての扉を閉めてください。
薪が転がり出たり、火の粉が飛び出す恐れがあります。
- 高温状態(約 300℃以上)での連続使用は避けてください。
過度な高温燃焼は部品の損傷や火災の原因となります。
- 煙感知器や一酸化炭素警報器を必ず設置してください。
万一来てて強く推奨します。
- 使用初期は十分に換気してください。
塗装が焼けて煙やにおいが発生する場合があります。

【 ！ 】 注意（安全に使用するための大切なポイント）

- 使用中は本体および煙突が高温になります。
必ず耐熱手袋を使用し、素手で触れないでください。
- 薪は投げ込まず、静かに置いてください。
強い衝撃は耐火レンガを破損させる原因となります。
- 扉の開閉や薪の追加の際には十分に注意してください。
薪がハゼルことがあります。
- 灰の処理は、ストーブが完全に冷えてから行ってください。
熾火が残っていると再燃や火傷の原因となります。
- 本体や煙突の点検・掃除は定期的に行ってください。
年 1 回が目安です。
- 初回使用時は「慣らし焚き」を行い、いきなり高温で使用しないでください。
- 水濡れにご注意ください。
水分が付着したときは乾いた布で拭き取り、完全に乾燥させてからご使用ください。

【 💡 】 重要（安全で快適に使用するためのポイント）

- 灰は必ず完全に消火してから金属容器に入れて処理してください。
熾火は灰の中で 2～3 日熱を保持していることがあります。
- 使用前にロストルパイプの穴が灰で塞がっていないことを必ず確認してください。
- 使用中は必ず十分に換気を行ってください。
一酸化炭素中毒を防ぐために重要です。
- 小さなお子様やペットが近づかないようにしてください。
必要に応じてストーブフェンスの設置をおすすめします。

3. 各部の名称と役割(図解)

図面 1 正面図

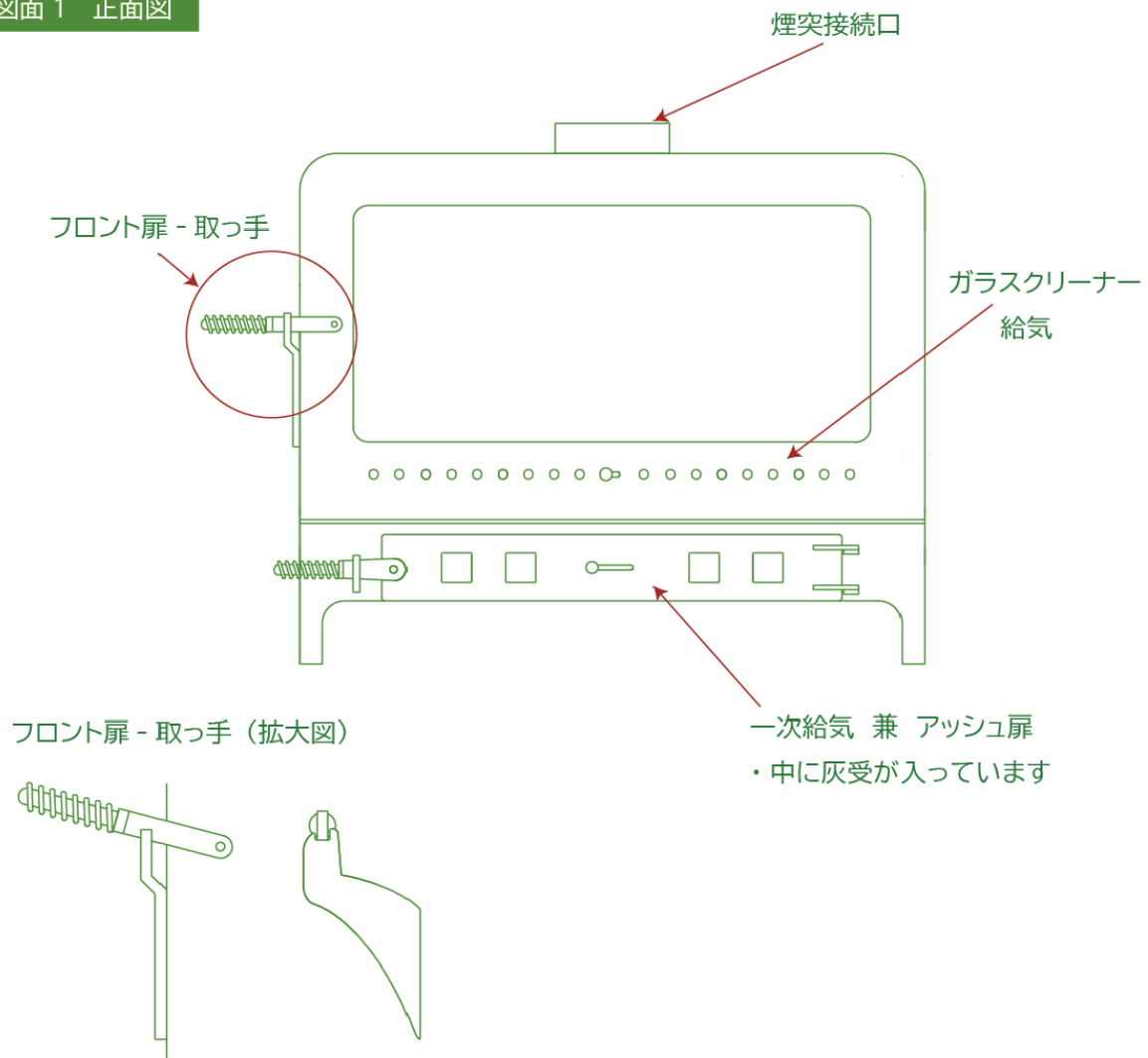


図 1: 正面図 薪ストーブ各部名称

- 煙突接続口 : 本製品と煙突を接続する部分
- 一次給気兼アッシュ扉 : 一次燃焼用の給気口。アッシュ扉の中に灰受が入っています
- フロント扉取っ手(拡大図) : フロント扉取っ手と半ドア用の刻み
- ガラスクリーナー給気: ガラスの曇りを軽減するための空気調整機構

図面 2 側面図

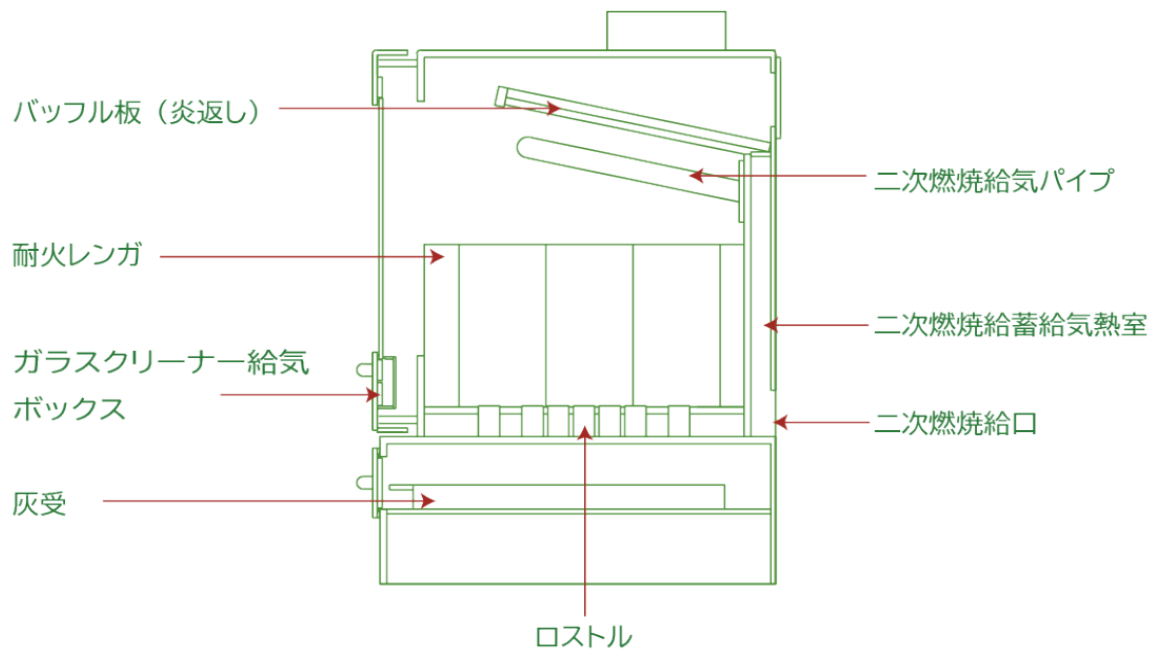


図 2：側面図・断面図 薪ストーブ各部名称

- バッフル板(炎返し)： 燃焼ガスを反射させ、熱効率を高めます。
- 耐火レンガ： 炉内を保護し、燃焼熱を蓄熱します。
- ガラスクリーナー給気ボックス： ガラス面に空気を流して曇りを軽減します。
- 灰受： 燃焼後の灰を受ける部分です。
- 二次燃焼給気口： 加熱された空気を炉内に送り込みます。
- 二次燃焼給気パイプ： 未燃焼ガスを再燃焼させるための空気を供給します。
- 二次燃焼給気蓄熱室： 空気を熱して二次燃焼を促進します。
- ロストル： 詳細は 6 章／9 章を参照

図面 3 平面・断面図

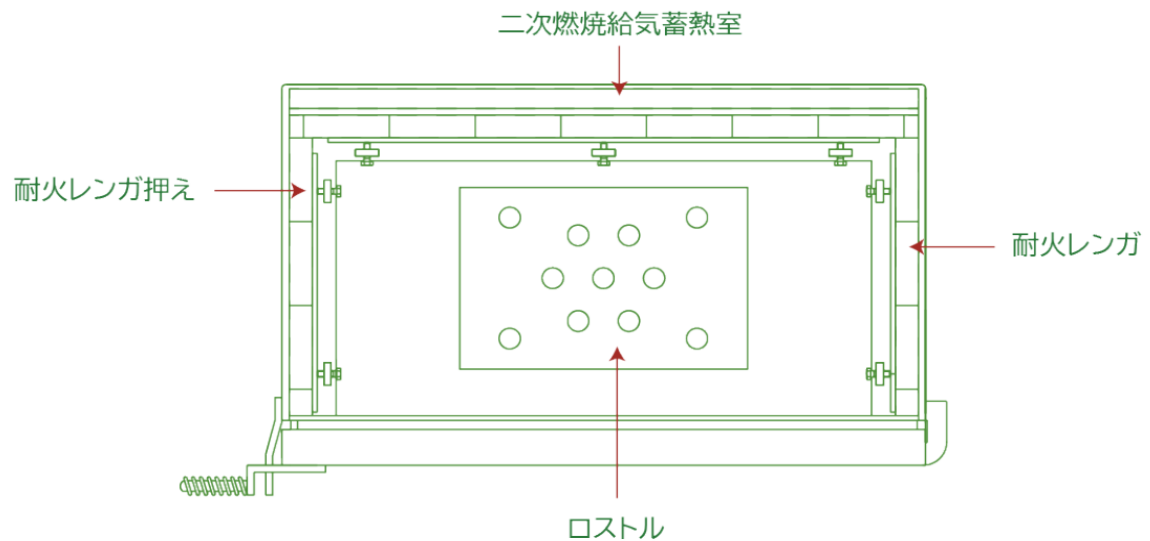


図 3: 平面・断面図 薪ストーブ各部名称

- 耐火レンガ押え : 耐火レンガを固定する部品です。
- 耐火レンガ : 炉内の耐熱保護材。
- 二次燃焼給気蓄熱室 : 空気を熱して二次燃焼を促進します。
- ロストル : 詳細は 6 章／9 章を参照

製品スペック

- 全体寸法 : W825mm × D500mm × H690mm
- 重量 : 277.5kg
- 暖房能力等 : 14,000 kcal/h (16.3 kW)

4. 設置に関するご注意

- 設置や煙突工事は必ず専門業者に依頼し、安全にご使用ください。
- 壁や天井など可燃物との離隔距離を必ず守ってください。
- 必要に応じて、炉台や遮熱壁を設置してください。
- 薪ストーブ本体の背面と遮熱壁との離隔距離は、30cm 以上確保してください。
- 床面は水平で安定した場所を選び、確実に設置してください。

5. 薪について

- 乾燥した薪(含水率 18%以下)をご使用ください。
- 広葉樹・針葉樹いずれも使用可能ですが、針葉樹は火力が強いため過燃焼にご注意ください。
- 薪の大きさは、長さ 30～40cm、太さ 5～10cm 程度を目安としてください。

5-1. 薪の乾燥と含水率の測定方法

薪を安全かつ効率的に燃やすためには、十分に乾燥した薪を使用することが重要です(目安:含水率 18%以下)。含水率が高い薪を使用すると、不完全燃焼や煙、煤(すす)、タールの発生、ガラスの曇り、さらには燃焼効率の低下につながります。

測定方法

- 測定直前に薪を半分に割り、割った断面に含水率計の針を刺して測定してください。
- 表面が乾いて見えても、内部に水分が残っている場合があります。特に自然乾燥の薪は外側だけ乾いていても中心部が湿っていることが多いため、十分にご注意ください。

6. ご使用前の準備

- 本製品は、火室に灰を貯めて使用する構造を採用しています。
- 炉内のロストルパイプの高さ(約 4cm)まで灰を貯めることで、ロストルを熱から守り、熾火を長持ちさせることができます。
- 初回使用時は灰がないため、1cm 程度の灰を敷いてから着火してください。

7. 操作方法（着火手順）

1. 灰受に灰が溜まりすぎているか確認してください。
2. 炉内のロストル穴に灰が詰まっているか確認してください。
3. 着火材を中央に置き、その上に焚きつけや薪を 2～4 本重ねてください。
4. 薪と薪の間には、1～1.5cm の隙間を確保してください。
5. ロストルのパイプ穴を薪で塞がないよう注意してください。
6. 一次給気を全開にしてください。
7. 扉を「半ドア」の位置にセットして点火し、薪に火が回ったら給気を調整してください。

【補足】半ドアとは取っ手を所定の位置に固定する方式です。単に半開きにすると、薪が転がった際などに扉が開く恐れがあります。
8. ガラスが十分に暖まり、炎が安定してガラス越しに火がはっきり見える状態になったら、扉をしっかり閉めてください。（目安：着火から約 20 分程度）
9. 薪は 1～2 本ずつ継ぎ足してください。

8. 操作のコツと注意点

【💡】重要

- 一次燃焼給気：焚きはじめは開け、熾火状態では絞ってください。
- 二次燃焼給気：常時開放でご使用ください（操作不要です）。
- ガラスクリーナー給気：曇り具合を見ながら調整してください（全閉は推奨しません）。

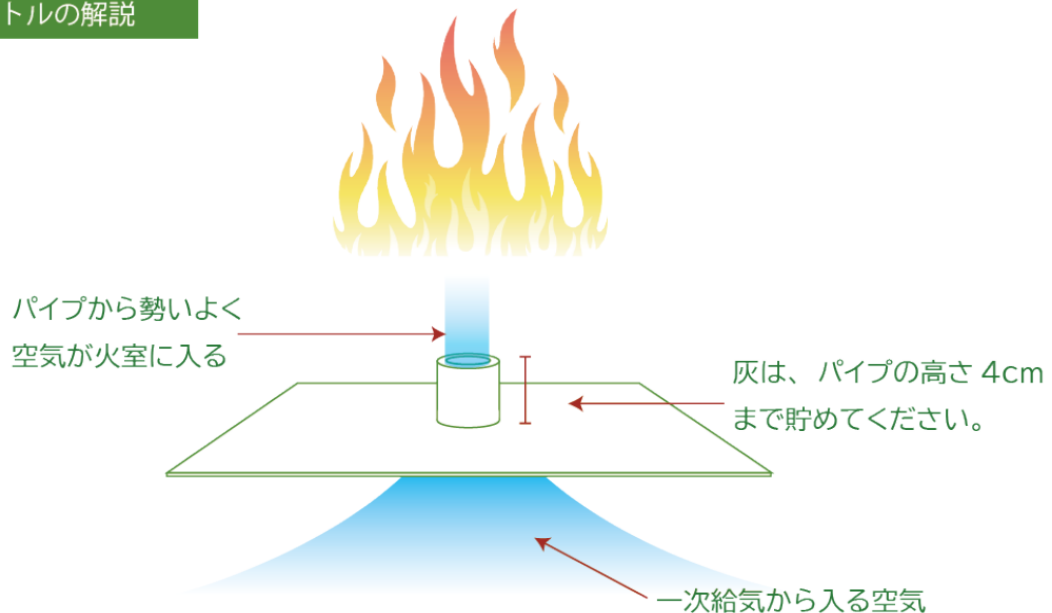
【🚫】危険

- 過燃焼が続くと、本体や塗装が損傷・変形する恐れがあります。
- 火力が弱すぎると不完全燃焼になり、煙やタールが発生します。

9. ロストル構造の解説(特許構造)

本製品には、特許構造「薪ストーブ用ロストル構造(特願 2014-054376)」を採用しています。

図 ロストルの解説



- フイゴのように空気を送り込むため、着火が非常に早いことが特長です。
- 使用前にパイプの穴が開いている(塞がれていない)ことを必ず確認。
- フイゴのような給気で着火性・安定燃焼が向上する仕組み。
- 灰の上で薪を燃やす構造のため、熾火が長持ちします。
- 灰掃除の頻度が少なく、ロストルが劣化しにくい設計です。

10. 日常のお手入れ

本章では、使用中や使用後に行う日常のお手入れについて説明します。炉内の灰処理やガラスの清掃など、日常の使用に直結する作業が中心です。安全に長くご使用いただくため、定期的の実施してください。

10-1. 灰の処理

- 灰は、火が完全に鎮火したことを確認したうえで、不燃性の灰入れバケツに入れてフタをしてください。
- バケツは必ず不燃の床、かつ可燃物のない場所に置いてください。
- 3日以上経過した後、完全に冷えていることを確認してから処理してください。
- 可燃性のある床や場所に保管すると**火災の原因となります。**

10-2. ガラスの清掃

- ガラスの曇りは、専用クリーナーまたは濡らした雑巾に灰を付けて拭くと効果的です。

10-3. ガラスクリーナー給気ボックスの点検

シーズン中は2ヶ月に1回を目安に点検し、灰や煤を除去してください。

- ドライバーでネジを外しボックス内のホコリや灰を掃除してください。

11. シーズン終了時のお手入れ

本章では、シーズンを終えて長期間使用しない前に行うお手入れについて説明します。内部の灰や煤の清掃に加え、サビ防止や湿気対策など、保管に向けた特別な作業が中心です。

- 本体内部および煙突内の灰や煤を完全に除去してください。
- 鉄部分は乾いた布で清掃し、湿気を避けて保管してください。
- 必要に応じて耐熱塗料や防錆油で補修してください。
- 炉内に乾燥剤を入れて保管すると効果的です。

12. 保証とアフターサービス

ご購入日より1年間、製造上の不具合に対して保証いたします。

保証対象外

- 説明書に従わない使用による破損や故障
- 不適切な燃料の使用
- 過度な過燃焼や整備不足による劣化・変形
- 天災(地震・火災・台風など)による損傷

アフターサービス

- 煙突掃除・メンテナンス・部品交換を承ります。
- 使用中に異常を感じた場合は、自己判断で分解せず、すぐに弊社へご連絡ください。
- 消耗部品(パッキン、ガラス、二次燃焼パイプ、バッフル板など)は有償にて交換可能です。

13. お問い合わせ先

本製品やアフターサービスに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。



朋友金属株式会社

〒594-1141 大阪府和泉市春木町6-8

TEL : 0725-53-3991